

第8回ゴミパイプライン協議会

会議名	: ゴミパイプライン協議会
開催日時	: 2017年4月15日(土) 10:00~12:00
場所	: 芦屋市環境処理センター会議室
参加者	
利用者の会より	: 大永代表幹事、山口委員長、友田副委員長(司会進行)、 長谷委員、春木委員、三宅委員
市より	: 北川部長、森田課長、藪田主幹、尾川係長、林パイプライン担当
傍聴者	: 15名

○利用者の会 皆様、おはようございます。定刻になりましたので、第8回ゴミパイプライン協議会を開催させていただきたいと思います。

私、本日の司会、進行をさせていただきます友田でございます。よろしくお願いいたします。

会議の前に皆さんのお手元に資料があると思います。ない方はこちらの右手のほうに用意していただいております。

本日の配布資料は資料1、パイプライン停止報告、資料2、運転時間変更、資料3、ワーキング・グループの活動報告4月、資料4、芦屋市のごみパイプライン基本データ、以上となっております。

それでは、本日も議題が盛りだくさんでございますので早速始めさせていただきたいと思います。

パイプライン維持管理業者の変更についてということで、これは藪田様のほうからご説明をお願いいたします。

失礼いたしました。その前に、大変失礼しました。この4月から芦屋市の人事異動で環境施設課長様が変わりました。そこで新しく森田課長が御就任されましたので、ここに本日来ていただきました。森田課長、一言御挨拶をお願いいたします。

○市 皆さん、おはようございます。

この4月に環境施設課長を拝命いたしました森田でございます。どこかで見た顔だなと思われる方もおられると思いますが、私、実は陽光町のマリナーズ芦屋というマンションに住んでおりまして、そちらで去年の5月から管理組合の理事長をしております。利用者の会の会合にも何度か寄せていただいたことがございます。楽しいグループワー

クもさせていただいたわけですが、きょうここへ来てどちら側に座ろうかなとか迷ったりしたこともございますけど、きょうはこちら側に公務で出席をさせていただいております。

かなり会を重ねられたこの協議会、私も議事録では拝見をしておりますが、実際にその場に臨むのは初めてでございますので、まずはこの空気になれさせていただいて、きょうは聞くだけにとどめさせていただこうかなと思っておりますので、余り発言を求めないようにしていただきたいと思います。きょうのところは御了承ください。これからもよろしく願いいたします。

○利用者の会 どうもありがとうございました。

それでは議題に入る前に藪田課長のほうからパイプライン維持管理業者についてご説明をお願いいたします。

○市 おはようございます。環境施設課、藪田です。

それでは報告事項のまず1つ目になります、パイプライン維持管理業者についてでございます。今までは日本フローダ株式会社という、パイプラインのメーカーさんで維持管理をしてきていたのですが、この4月1日で日本フローダ株式会社がなくなるということになりました。今後につきましてはこの業務、グループの親会社であります高砂熱学工業株式会社に業務が移管されていまして、今は高砂熱学工業さんが維持管理をしているということになります。

業務を移管されたということですが、今まで維持管理に携わってきた人、こちらも同じく異動しておりますので、現場で点検をされている人というのは今までと同じ人が行っておりますので心配はないと思っております。

それと会社が変わったということで方針が若干変わっておりまして、今まで小回りがきくスクーターで投入口を点検して回っていたんですが、車で回るようになりましたので、投入口の点検を行っているときは近くに車をとめて点検している形になっております。ご迷惑をおかけするかもしれませんがその辺ご了承願いたいなと思います。

以上です。

○利用者の会 どうもありがとうございました。

続きまして報告2番、パイプライン停止報告について林様のほうからご説明をお願いいたします。

○市 おはようございます。芦屋市の林と申します。

前回のパイプライン協議会以降、この1カ月間に3地域でパイプラインを停止いたしましたので、その作業報告をさせていただきます。

まず1カ所目ですけれど、3月15日から3月23日間、こちら黄色の部分になるんですけども、こちらのほうがパイプライン停止しまして、ちょうどこの赤の部分で閉塞を確認いたしましたので復旧作業を行いました。こちらのほうが作業中の写真になります。実際、左2枚の写真がカメラ車から撮った写真になります。ちょうど青い矢印から見た側の写真になりまして、ごみが輸送管内で堆積、閉塞しておりまして、実際カメラが行けるところが限られておりましたので洗浄作業と通気運転を行いまして復旧はいたしました。

今回のこちらの閉塞に関して考えられる原因といたしましては、カメラ車で調査をしたんですが、穴あきのほうは発見されませんでした。カメラで見れるところが限られておりましたので、何が詰まっていたかなど、具体的な原因のほうはわかりませんでした。

復旧対応といたしましては、輸送管内の洗浄作業、通気運転、こちらのほうは空気だけを吸う運転でして、そちらのほうで引けるものは引いて開通しようという運転になりました。こちらをしまして復旧はいたしました。

続きまして3月23日から3月29日まで、こちら新浜町の一角にあるんですけど、ちょうど左手のほうに拡大図を載せています。投入口番号といたしましては3159、こちらの枝管の部分で閉塞が発見されまして、この1つの投入口を停止いたしました。

こちらに関しては輸送場面も観測しておりまして、実際こちらが輸送管内から出てきた残留ごみの一部になります。あくまで一部でして、一部はバキューム車で吸ったものがあつたんですが、啓発という形でこういったものを投入口には写真つきで掲示をさせていただいております。こういう紙資源に関しましては、また紙資源の日に出していただきたいです。

こちらも同じところからの残留ごみの一部になります。実際、ペットボトル中身入りのものや瓶なども輸送管内から出てきましたので、こういった瓶に関しましては瓶の日に、ペットボトルに関しましては中身を出して水洗いをしてペットボトルの日に出してください。こちらに関しても一応バキューム車と通気運転で現在は復帰しております。

こちらに関して考えられる原因といたしましては、カメラ車及び入管作業を行いまして穴あきは発見されませんでした。輸送管内も、先ほどの資料の写真をごらんいただいたらわかりますが、とても乾燥しておりましたので水の浸入は確認されませんでした。

原因といたしましては、運転でちょっと吸引できなかった残留ごみが輸送管内で堆積して、せきとめたことによって閉塞を起こした可能性があると考えております。

復旧作業としましては、輸送管内の残留ごみの除去作業と通気運転を行いまして、現在は復旧しております。

続いて3カ所目、最後になるんですが、こちらも新浜町の一角になります。左手のほうにまた拡大図を載せております。こちらのほうに関しましては投入口番号3149、こちらの枝管部分で閉塞が発生しました。

期間といたしましては3月28日から4月10日、今週の月曜日まで作業がかりまして、一応現在は開通しております。

こちらのほうも一部取れたもの、一部ですが、輸送管内の堆積ごみを写真であらわしております。こちらは見にくいんですが、新聞紙の束ですね、そちらのほうはひもでくくられて輸送管内に堆積しておりました。右手のほうは袋に土の塊が入ってございまして、それも輸送管内で飛ばずにずっと堆積しておりました。段ボールに関しましては、紙資源の日に出してください。

こちらもちょうど同じ場所になるんですが、輸送管内に新聞紙と土ですね、花とかを植える土が袋のままで入ってる状態で、こちらも輸送管内で動かずに堆積しておりました。段ボールや新聞紙に関しましては紙資源の日、土砂に関しましては処理困難物の取引業者のほうに処理を依頼してください。

最後になりますが、こちらも輸送管内のカメラ調査、入管作業を行いまして穴あきのほうは発見されませんでした。

原因としては、輸送管内で吸引できなかったごみが輸送管内で堆積いたしまして、それをせきとめたことによって閉塞を起こした可能性があると考えております。

こちらも復旧対応といたしましては、残留ごみの除去、洗浄作業、通気運転を行いまして、現状復旧しております。

こちら3地域に関しましては、今ちょっと様子を見ながら運転をしております。

報告は以上になります。

○利用者の会 どうもありがとうございました。

○利用者の会 今週、利用者の会を木曜日の夜に1枚だけ写真をお借りして説明しますが、本当に申しわけないなと思っております。

先ほど、このごみをとる費用でかかったのを教えていただきまして、浜風が60万円、

ラ・ヴェールが50万円と70万円と120万円、計180万円かかっているとお聞きしました。本当にこれは問題だと思って、私たちがワークを通じてでも、これに関するマニュアルと申しますか、パイプラインに捨てていいもの、悪いものということで作りましたので、印刷業者に今頼んでまして、これが来週の水曜日に来まして全戸配布、7,500部刷りましたので、それを配布すると。そして5月の連休明けから5カ所で説明会を開きますので、何とかそれで、こういう問題が防げたら費用の削減にもなりますし、私たちとして打てるものは手を打っていかうと考えております。

○利用者の会 ありがとうございます。

今のご報告に関して、春木さんどうぞ。

○利用者の会 どうも、ご苦労さまです。春木です。

非常に住民起因のトラブルが多い中で大変ご苦労されて本当にありがたいなと思っております。やっぱりこういうトラブルあるいは故障トラブルが起こったときには、普通、工場でしたら当然、再発防止対策、業務異常報告書なりやって再発防止対策をきっちりやるのにあわせて、今、委員長もおっしゃられたように損害ですね、どれだけの被害があったかというのも、実際に故障トラブルを起こした部署がそれを調べてまとめて報告して、もう二度とやりませんとなるんですが。ぜひ、やっぱり住民さんも、詰まりもそうですが、起こされた方が本当に自分が投入したことが起因して止まって、本当に他の住民の皆さん、あるいは施設を管理される方が御苦労されたという、それを知っていたくことが再発防止対策につながると思うんです。

それと、先ほど60万円、50万円、70万円と言われましたが、これは外注に依頼した費用だけですね。そしたら維持費でも、中にあるんですが、委託費ですね。この2人2組でやられてる方とか、それらの人がこれにかかわったということはないんですか。もし、あるのであれば、やっぱりその人の時間当たりの人件費ですね、それらも当然加味してやっていただきたいなと思いますね。その積み重ねが結局、委託費の低減にもつながっていくことになりまして、そういう小さなことの積み上げで改善につながっていくと思いますので、ぜひその辺をよろしくお願ひしたいなと思います。

また、これらの故障トラブル、例えば半年に1回とか定期的に、何でこれだけの異常が起こってるかというのを、使ってる住民の皆さんによく認識していただきたいなと思います。その辺はまた掲示板なり、いろんなやり方あると思いますので、ぜひ。使っている住民も当然のことながら、そういうことを守らせるということも1つ対策になると

思いますので、ぜひ損失ですね、どれだけの損失、損害があったのかということも含めて住民に、こんなことを言ったら皆さんに怒られるかもわかりませんが、その辺はやっぱり厳しくやってほしいなと思っています。これだけ住民の皆さんが非常に一生懸命この施設を末永く大事に使ってほしいと皆さん思われていますので、よろしく願いしたいなと思います。

○利用者の会 ありがとうございます。

それ以外にこのご報告に関し。長谷さん、どうぞ。

○利用者の会 ありがとうございます。長谷と申します、済みません。

春木さんのおっしゃってる件、そうだろうと。それはまた利用者の会でどういうふうにしていくかというのを話し合っていたらいいのかなと思いますが。

ただ、ちょっと気になるのが、よく閉塞する中に新聞紙でもこれだけきちりして置いて投棄しちゃうというのはちょっと信じられへんという状況なんですね。その地域に例えば学校であったりとか事業所であったりとか、投棄をしなくてはやむを得なかったようなそういう事業所というのはこの辺にはないですよ。ということになると、例えば外部から投入されてしまったということはないですかね。というのは、これまた利用者の会でもお話をしてもらわないかんのやろう、中にはどこで鍵を手に入れたのかわからないですけど、捨てに来てらっしゃる人を私は見かけたことがあります、実際。注意申しあげましたけどね、どちらの方ですかと申しあげましたけど。そういうこともあるので、今回こういうことになってる原因がそういうことの可能性も捨て切れないなと思います。いずれ、みんなでこういうことをどうしていかうかというときに、鍵とかそういう管理の問題となるかなと思います。

1つだけ、ちょっとお願いだけ、これを一般の人がパッと見たときにちょっとわかりにくいなと思った。スケールがわからないんですよ。せつかくここまで写真を撮ってはるので、できたらどこかスケールを置いて、この間の丸太とかね、あんなの入りようがないようなものじゃないですか、下にどんってやつね。ああいうものなんか、僕はちょっとスケールみたいなのがあって写してくれると、より一層わかりやすいかなと、これ要望ですけど、お願いをしておきたいと思います。

以上です。

○利用者の会 ありがとうございます。

それ以外にご質問はございませんか。

○傍聴者 ちょっといいですか。済みません。

あのね、私、この管理組合で今、この点について物すごく……。

○利用者の会 お名前をお願いします。

○傍聴者 新浜町の松木と申します。

この件につきまして管理組合とも注意はしてるんですよ。ところが、やっぱり末端の人にまでこれが徹底してないというのが今回のこの詰まった原因ではないかなと思います。

それで提案なんですけれども、もし私どもの管理組合の月に1回、第1土曜日の9時から管理組合理事会をやってるんですが、そこへ、市の方に来ていただいて説明をしていただくと同時に、詰まったところに現物をしばらく一定期間置いて、こんなものは絶対やめてください。投入口のところに写真は張ってありますけれども、写真は確かに詰まった以降張ってありますけど、あれでは効き目がないと思います。そういうことをやらないと、本当に一部の、大多数の人は守ってるんですが一部の不心得な人のためにこういうことになってるということで、これをやっぱりなくすためには思い切ったそういうこともやらなあかんの違うのかなと思います。利用者の会でも説明会、今度開かれることになっておりますが、その前に一度、ラ・ヴェール3とラ・ヴェール2の方がここにおられますので、ちょっとそこら辺のところで、もし市のほうでいつでも呼んでいただいたら行きますということであれば、時間をあわせて来ていただいて説明していただきたいなと思います。

以上です。よろしくをお願いします。

○市 芦屋市の藪田です。

この件につきまして、今、松木さんのほうから提案いただきましたので。管理組合さんの会合ですかね、時間調整とか日程調整させていただいて、お伺いさせてもらって、こんな写真とかも提示させてもらって説明させていただければと思います。

それと現物をその場所に置くということですが。

○傍聴者 説明するときに持ってきてもらえればいいです。

○市 そうですね。実はもう写真のものは処分してしまっていて、もうないんです。我々も置きたい思いはあるんですが、やはり中から出てきたものというのが大分いろいろなもの、ほかのごみと接触しておりまして、やはり不衛生な状態なんです。においとか虫とかがありますので、中から出てきたのは速やかに処理したいなとは思ってます。その

かわり写真を撮って、こうやって今やらせてもらっているということです。

以上です。

○傍聴者 ぜひお願いします。

○利用者の会 山口さん、どうぞ。

○利用者の会 今、松木さんからいい提案があったなど。我々もたまたま、今年の理事会の営繕担当というのは非常にすごい人たちが3人おりまして。私たちはたまたま22階から落ちて洗濯物のネットが挟まってしまい、たまたま入り口だったのでとって2カ月ほど1階の掲示板の下に怒りの告発と書きまして、現物をずっと置いときました、2カ月間。その横にまたごみを放置した人がいましたので、腐る物じゃないというのを確認してそれも一緒に、2つセットでエレベーターの横に2カ月間、掲示板の横に設置しておりました。非常にこれは効果がありました。いろんな方がやっぱり何だろうかと見るというか、そこにいろんな文言を書いていたので、これは非常に効果があることだと私は経験上、感じました。

○利用者の会 ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。なければ、続きまして本日の議題の1番、パイプライン運転時間変更につきまして、資料2でございませう。尾川様のほうからよろしくお願ひいたします。

○市 芦屋市、尾川です。よろしくお願ひいたします。

まず資料2、このパイプラインの運転時間変更についてということで、この冊子を広げてください。

パイプライン施設におけるブロワ（環境処理センターでごみを引く掃除機のようなもの）の運転時間について、この前の2月に、ホームページでも告知させていただいて実証実験を行いました。ただし、その結果としまして昼間の満杯運転、ブロワの満杯運転が増えまして、結局ブロワの運転時間が増える。そして電気代が増加してしまうというようになちよつと残念な結果になりました。それを踏まえまして、さらなる変更を加えて再度実証実験を行いたいと思っております。

まず1番としまして、前回2月、1カ月させていただいた実証実験ですが、ブロワの朝の定時運転を7時40分から通常行っておりましたのを5時半からに変更いたしました。これは関西電力の電気の安い時間帯にこの大きなモーターであるブロワを動かす。そうしましたら、今度ブロワの昼間の満杯運転ですが、今、高砂熱学の操作員の方が3カ所

から4カ所の満杯、赤ランプを確認しまして、昼間は満杯運転をかけております。それはそのまま、2月の実証実験ではそのままの状態で行いました。

ブロワの夕方の定時運転、16時10分からやってるんですけども、それに関しましてもそのままの時間帯で行いました。その結果としまして、朝の定時運転を電力量料金の安い時間帯に変更することによって、朝の定時運転の電気代は下がりましたと。ただ、その分、朝の早い時間に空っぽになってしまいますので、どうしても昼間の満杯運転の回数がふえてしまうと。最終的にブロワの電気代は増加したと。ただし、利用者の方から赤ランプが多いよという苦情は特になく、逆に通勤時の朝のごみ捨て、朝会社に行かれるときにゴミ捨てするときに赤ランプになってるといことが、赤ランプの回数が減って、朝の通勤時にゴミを出しやすくなったという言葉いただきました。

それを踏まえまして、今回の実証実験。一応、期間としては5月9日、ゴールデンウィーク明けから5月31日まで、5月いっぱいを考えております。

内容としまして、ブロワの朝の定時運転、これは2月と同様に電力量料金の安い時間帯、5時半からに変更します。

次にブロワの昼間の満杯運転、高砂熱学さんの操作員の方が手動でやられてる満杯運転なんですけど、今、三、四カ所の赤ランプでブロワを運転してるところを6カ所、赤ランプが重なると運転するという形に変えます。

次にブロワの夕方の定時運転。これに関しまして16時10分からやってるところを昼休み時間帯、12時から13時の間にブロワの夕方の定時運転に変更します。

目的としましては、朝の定時運転を電力量料金の安い時間帯に変更することによって、朝の定時運転の電気代を下げる。それは2月と同様ですね。夕方の定時運転を昼休みに変更することによって、昼間の満杯運転、この回数を減らそうと。もちろん満杯運転に関しましては利便性は落ちるんですが、三、四カ所の赤ランプじゃなく6カ所にすることによって、それでもさらに満杯運転の回数を減らそう、このような実験をちょっとさせていただきたいなと思っております。

次に影響としまして、定時運転が昼休み時間帯になったことによって夕方以降の赤ランプの回数はふえます。特に5時以降ですね、高砂熱学さんの操作員が帰られた後は定時運転もないような状態で満杯運転もないような状態で赤ランプがついてるところはもう朝まで、5時半まで基本的に赤ランプの状態になります。ということは、夕方以降の赤ランプの回数がふえ、ゴミを投入できない可能性があります。ただし、午前について

は今の現状よりも赤ランプの回数が減るので、通勤時の朝のごみ捨てで、まあ、ちょっと何例かあったんですが、通勤のときにごみを捨てようとして行ったら赤ランプだったと。だからそのまま投入口の横にポンと置いて会社に行っちゃうというような、放置するようなことは減るのではないかと考えております。

次に推奨としまして、家庭でのごみ捨てをできるだけ6時半から12時、要するに午前中に固めていただくことによって定時運転の効率が上がりますと。定時運転のときはいっぱい引いてくるというような、定時運転時にたくさんのごみを搬送でき、満杯運転の回数を減らして電気代を効率的に下げようというのが目的になっております。

このような実証実験を5月のゴールデンウィーク明け9日から31日にかけて行います。これ、ホームページでも告知をする予定ですが、利用者の方には特に夕方以降のごみの投入に関して御迷惑をおかけすると思えます。ただ、これによってどのぐらいの維持管理ですね、電気代のメリットがあるのかを検証するために、この1カ月弱、ちょっと御迷惑をおかけしますが、こういう形で実験をさせていただいて、これによってどのぐらいの苦情というんですかね、利便性の低下があるのかと、その辺もちょっとにらみまして1回、実証実験をさせていただきたいなと考えております。

この議題1のパイプラインの運転時間変更については以上です。

○利用者の会 ありがとうございます。

ただいまのご説明に関しまして、ご質問等があればお願いいたします。春木さん、はい。

○利用者の会 どうも、ご苦労さまです、春木です。

2回目の実証実験ということで、今度は朝の定時運転は1回目に変更した、そのままということで、夕方の定時運転は12時から13時となっています。電気代だけを思えば昼間時間帯に入る8時、その直前に回したほうが、それだけ考えれば効率的やと思うんですが。ただ、通勤の人がちょうど起動してるときにおかしいやないかとか、いろいろ案がありまして。朝は5時半にしようということですね。夕方は12時、ピークのとこにあわせて、ここで引っ張ったほうが効率的じゃないかということですけど。あと朝夕の定時運転以外に、まあ今回は6カ所の点灯にてブロワを運転して、できるだけ効率化を図ろうということです。主にこの6カ所の点灯ですね、定時運転以外に運転するのは従来1.5時間程度を目標ということで聞いておったんですが、今回の実証実験の中で、この間いただいたグラフから見ていますと、この1.5時間の運転は12時から13時の定時運転

が終わって、その後、16時までですか、オペレーターがおられて運転。

○市 17時。

○利用者の会 17時ですね。来られて運転できるのは17時までですね。そしたら、この間の図から見たら、恐らく12時から13時の定時運転の後に、この17時までの間で満杯になった箇所について、この1.5時間ですか、合計したら1.5時間程度の6カ所の詰まったところを引いていくということが想定されるんですが、その辺いかがでしょうかね。

○市 尾川です。

昼休みに定時運転を行うことによって、そこで一旦、ほとんどのところは空という形になります。ただ、昼御飯食べた後のものみたいなのを多分捨てておられるので、そこからポンポン赤ランプがつくと思います。それを今、三、四カ所で赤ランプがつくと、もうブロウを運転して引いてたので、住民の方にとっては赤ランプやと思ったけど、ちょっとしたらすぐ緑ランプになってるので、すぐ投入できるという形です。ただ、今回のことに関しましては6カ所という形になるので、なかなか赤ランプのままやなというのが続く状況になると思います。ただ、一応1時の時点できれいに空っぽになってますので、午後の17時までの満杯運転がかなり減ると見込んでおります。その状態で1番危惧してるのは夕方以降ですね。夜御飯食べた以降というのは、もう満杯運転もない状況で、もともとは16時10分から始めて17時過ぎに終わって、そこで空になってる状態で夕御飯を迎えると。だから、ある程度、余力があったんですが、それが要するに昼間で空っぽになって、そこから満杯運転をちょろちょろとかけた状態で夕御飯を迎えるような形。夕御飯を食べた後の、出したいものみたいなのがどうしてもやっぱり利便性にかなり影響があると思ってます。それが逆に今度は全く、例えば18時、19時ぐらいですかね、御飯食べ終わった後捨てる時、そのときにずっと赤ランプのまま。そこから引くことはないので、朝まで捨てられないような状況。どっちかという、家から出たものをすぐ捨てるという感覚ではなくて朝に捨てるという感覚になると思います。

だからその辺が利用者の方がどういう反応を示されるかというところにつながってくると思いますが、劇的に需用費、電気代を下げようとする、そのような運転になると思います。ただ、これはこの利便性とメリット、これのてんびんになると思いますので、まずはこの1カ月間だけ御迷惑をおかけして、また第2段、第3段という形でほかの方法も考えておりますので、1回ちょっとそれで、どのぐらいの影響があるのかというのをまず定量的に判断したいと思っております。

○市 芦屋市の藪田です。ちょっと補足説明させていただきます。

春木委員がおっしゃったのは、お昼の12時から13時の定時運転じゃなくてピークが、折れ線グラフを見てますと2時、3時。だからそこにしたほうがもっと効率いいんじゃないかというご質問と思います。それを折れ線グラフで見てわかっておきながらお昼にしてる理由というのがあります。実は、現場作業との兼ね合いがあります。毎日作業員が午前、午後と点検して回っておりまして、点検をしてるということは現場は、マンホールをあけたり点検口をあけたり機械を止めたりしてるという中で、それをしますと定時運転を自動でかけられないということになります。ですので、現場で作業をしていないお昼休みの時間帯に定時運転を持ってこようかなど。例えば2時、3時に定時運転を持ってこようと思いますと、その間、現場作業をとめないといけない。作業中でも一旦点検口も全部閉めて復帰させて自動に切りかえとかないけないというのがありますので、ちょっと現場作業との兼ね合いで今お昼にということを考えております。

以上です。

○利用者の会 長谷です。

実証実験なので、いろんな可能性でやりはったらいいと思うし、やってもらいたいと思う。

具体的に、じゃあ生活スタイルとして、例えば土日の場合、まあそれは自動運転になって土日はどうなんだというの。恐らく状況が違うのかもしれないと思う部分もあるんですね。データを見てると、山口さんのほうでピックアップしたらわかるんですかね、土日だけってわかるんですよね。それも含めた、また次の課題としてそこぐらいも考えていただきたいなど。確かに通勤前ということと言うとその時間がいいんだけど、そういうことを考えなくてもいい時間が、土日でも仕事やという人がいてはるかもしれませんが、そういうことをもう少し念頭に入れてやっていただきたいなと思います。要望です。

○利用者の会 ありがとうございます。

それ以外にご質問等ございませんか。ないようでしたら本日の議題の2番、ワーキング・グループの活動報告につきまして、資料3を藪田主幹のほうからご説明をお願いいたします。

○市 芦屋市の藪田です。

議題の2、ワーキング・グループの活動報告について、資料3に沿ってご説明させて

いただきます。

ワーキング・グループですね、この協議会だけではなかなか時間もかかってしまうということもあって、これの下部の会議をつくって、たしか12月の協議会だったと思いますが、そこでいろいろお話しさせてもらってグループAからEまでテーマごとに5つに分けて、もっと細かい話なんかを詰めていっております。その3月、4月分の報告をしたいと思っております。

まず、グループAになります。こちらのテーマはパイプラインの維持管理の検討ということで、維持管理費の削減とか利便性の向上とかを目的にいろいろ話し合っております。この中で運転方法の変更なんかも考えてやっております。先ほどの議題1になりますかね、運転時間の変更、このあたりの話もこのグループAの中でさせていただいております。

グループAの中の2つ目の黒丸になりますが、次の実験というんですか、もう一つ維持管理費を下げる手段として休日、まあ日曜日、祝日ですね、このあたりのパイプラインの運転をとめてみたらどうだろうかというのも案としてはありまして、今このあたりを検討しております。投入ができないというわけではなくて、維持管理、メンテ業者を休ませるとというのが、出勤させないということになりますので、委託費が下がる方向の話をしております。

人がいないということはどうなるかといいますと、定時運転は自動でかけられますので運転できると思っております。途中でトラブルが起きてシステムが止まりますと、次、人が出てくるまでずっと止まりっ放しという状態になりますが、異常がなければ定時運転は通常どおりできるのかなと思っております。

あとは人がいないということで昼間の満杯運転もできない。昼間の満杯運転は手動で、人が目を見て赤ランプの数がたくさんついてきたら手動で運転をかけてますので、昼間の満杯運転ができなくなるということと、あと最近、数が減ってきたのであんまり問題ないかなとは思いますが、貴重品なんかの誤投入への対応ができなくなる。一昔前はかなり、鍵ですとか、いろんな大事な貴重品なんかを間違えて入れてしまったという連絡があって、これをほっておくとブロワ運転してしまっ、ほかのごみと一緒にしてしまうと、もう見つけることはできないんですが、連絡もらってすぐであれば、そこをとめて作業員が駆けつけて中のごみを引っ張り出せば何とか探すことができたりはしてたんですが、出勤をさせないということであれば、このあたりも対応できない。ただ、最

近物すごくこの数が減ってきておりますので、余り問題ないのかなど。捨てる方が注意していただけたら何とかいけるのかなと思っております。その辺のデメリットなんかもあるんですが、今ワーキング・グループAのほうで、このあたりを検討しております。

それと3つ目の黒丸ですが、やはりこの協議会でもお話ありましたが、パイプライン輸送管、この補修方法ですね。もっと簡単で安いものないのかという中で、今、内面ライニング材での補修方法を検証しております。1月に実施しております、おおむね今、実験開始から2カ月半ほど経過しております。適宜マンホールあけて見てるんですが、特に異常が見られないと。良好に運転できてるということでございます。

次、グループBになります。こちらの目的は、利用者への効果的な情報提供とパイプラインに捨てられるものの検討をしております。効果的な情報提供、この情報提供の方法としていろいろ考えております。メールでありますとかホームページでありますとか、いろいろあったわけですが、そんな中で見本なんかも用意しながら運用面とか費用面なんかを考慮しながら話し合っって具体案を検討しております。その中でまずやってみようということで、投入口の上に掲示板をつけようやないかということで、今、話をして、まず5カ所ぐらいの投入口を選ばせてもらって、そこで一度様子を見てみようかということで話が進んでおります。また、これが5月ぐらいには物ができ上がってきて設置できるのかなと考えております。また掲示板ができて設置する際にはご連絡させていただきたいと思います。

次の黒丸ですね。パイプラインに捨てられるもの、こちらについては利用者の会の方たちが中心になって配布物をつくっていただきまして、利用者のほうに配布するというのを聞いております。

次のグループCになります。こちらについては、まずパイプラインの現状分析を行って論点を整理しようということで、山口さんのほうですばらしいシステムをつくっていただきまして、利用状況の把握というのを日報からしております。赤ランプシステムでありますとかトラブルを把握するための業務日報システムがありまして、こちらについては現在、日々の日報という形で維持管理業者、高砂熱学工業株式会社、こちらで今、入力してもらっております。適宜、このシステムを分析しながら、また利用者への情報提供も行いながら今後、業務改善等を行っていけたらなと思っております。

グループのDになります。こちらは今後の設備補修、改修の検討と提案ということで、パイプラインの今後、どういう形で補修とか改修していくんやという話をしているグル

ープになります。今やっておりますのは、パイプラインですね、10年、20年、30年、パイプラインを運用させた場合というところで、まず、仮定しまして、中身を試算しております。そうしまして、リスクも考慮しながらこの協議会のほうに提案できるように今現在、継続的に検討しているという状況です。

最後、グループEになります。こちらはパイプラインにかわる輸送方法を検討し、提案するという内容で話し合いをしております。パイプライン以外の方法、こちらは当然パイプラインの利便性とか費用面などこの辺を十分考慮しながら、いろいろなシステムがあるんですが、そのシステムのメーカーさんも呼びながら説明を受けて、このパイプラインにかわる輸送方法、何かいいものがないのかというのを、この協議会に提案できるように、これも現在、検討中になっております。

このグループAからグループE、5つほどのグループに分かれて話し合いをしております、これらのことをずっと整理していきまして、おおむね7月ごろをめどに協議会で総まとめしたいとは考えております。

以上です。

○利用者の会 はい、どうもありがとうございました。

ただいまのご説明に関しまして、ご質問があればぜひお願いいたします。

はい、長谷さん、どうぞ。

○利用者の会 はい、長谷です。

ワーキング・グループ、皆さんご苦労さまです。ありがとうございます。

ただ、AからDまでについては現状のものを分析して処理計画、補修計画をどういうふうにしていこうか、つまりパイプラインについてのワーキング・グループなんですね。ところが、このEだけについてはパイプライン以外の計画をどうしようかというお話で、これだけがピックアップされてしまいますと、パイプライン全体の利用者の方なり、今日の場も含めましてですね、若干問題視する点もあるかと僕は思うんですね。

ですから、これをやるんじゃないかと、これは長い将来を見据えた上での提案という捉え方でお考えになったほうが私はいんじゃないかな、私個人の意見ですけどね、いいんじゃないかなと思いますね。明らかにパイプラインとかわるシステムをここで考えていくんやということで具体化する前にやらなくちゃいけないことありますし、恐らくいろんなシステムというものも多種多様やと思います。最近、2回ほど申し上げましたけど、やり出した国、スウェーデンのストックホルムの1番南のきれいなところで、住宅

地ですけど、そこが新たなパイプラインを世界に売ろうとしてるんですね。環境先進国のスウェーデンがそこまでやるというのだから、当然コスト面に厳しい国ですから、そういうところだって十分あり得るだろうし、そういうものも含めた上で皆さん利便性を下げないようにという計画でということに理解させていただいてよろしいですかね。

このEの部分だけが若干これから未来に向かって、悪いことじゃないんだけど、その部分の市のほうの認識だけがちょっときちっと聞いといたほうがいいかなと思うんですけど、いかがですか。

○市 芦屋市、藪田です。

グループEですね。具体的にいつからこのパイプラインにかわるシステムを運用するんやという話は今までこのグループの中でも出ていないんですけども、平成26年度のパイプラインの検討委員会の委員さんからも、やはりこういう話をするのであれば、パイプラインを廃止するやしないという話をするのであれば、その後の話もしっかりとやっぱりしていったかないと、廃止した後の事、非常に不安だけが残るという御意見も伺っています。

それと、やっぱり、もしこのパイプラインにかわる輸送方法というのが非常にいいものがあればそんなにパイプラインにこだわる必要もないのかなという思いもありますので。いつからというよりも、パイプライン以外でどんなシステムがあるんやろうという勉強も含めて今やっております、最終的にはこれら全てトータルでこの協議会に提案したいなと思ってるんです。これだけ引っこ抜いて提案するというよりも、今までこのグループ、トータルで提案させていただきたいなと思っております。

以上です。

○利用者の会 長谷です。

そのとおりだと思うんですね。これも先のことを考えながらやっていく、もしくはかわるもの、よりすばらしいものであれば、それはその提案というのも当然必要やろうし。ですけど、私が言いたかったのは、これが基本になるんだよということではないという感覚はしっかり押さえといてねという意味なんですね。パイプラインが今あって、グループAからDまでは、どうやったら長く使えるだろう、存続していこうという考え方があって、Eだけの部分については比較検討するような材料をそろえていくんだみたいな感覚で捉えておきたいなと思うんです。でないと、これだけが逆にひとり歩きをしちゃうと、逆にパイプラインはないのでこうこうこうだという話になってしまいますと

利用者の人の、全員一致ではないと私も思うので、その辺をちょっと気にしたので申し上げたんです。

以上です。

○利用者の会 利用者の会の山口です。

今、おっしゃったことは恐らく利用者の人も思っておられることだと思います、基本的に。ただ、考えなきゃいけないのがやはり先ほどの藪田さんがおっしゃったように、全体の中で考えないとまずいかなと思います。ですからパイプラインを今一生懸命どうしたら存続できるかと同時に、じゃあ、それがもしかわるものがあれば、それも費用面で非常によくて私たちの利便性もよければそれも当然同じレベルで考えておかないと後で困るのは利用者の私たちだと思ってるんです。だからこの際、私たちは汗をかいていろんな場合を想定しながらトータル的に考えていくという姿勢でいたほうが、また同じ話が後で何十年後、20年後に起こってくると思いますので、今の段階でいろんな可能性をトータル的に考えて、良いものを市の皆さんと私たち利用者で考えていくと、それが私たちの歩むべき道筋だ、ベストとは言いませんけど、ベターなのかなと私自身は考えています。

○利用者の会 ありがとうございます。

それ以外にご質問ございますか。

○利用者の会 今のこのグループEですか、これもいろいろ利用者の会から委員やられて、非常にご苦労といたしますか、まあスタートしたところですね。グループEは2回目ですかね、ご苦労されてると思います。

また、平成26年の第三者委員会の際に資料としても出されてますね、この代替案、何種類か。私もよくわからないんですが、今のところは恐らく中高層に大世帯、この辺がちょっと主体になってるのかなという気もしますし。今、芦屋浜にしても南芦屋浜にしても、現状から代替に持っていくというのは、今の時点で非常難しいことだと思います。場所と収集車、回収車の関係もありますし。だからその辺もせっかく平成26年の時点でああいうものも調べられてますので、藪田課長のほうも、それ今後10年、20年、30年、ずっとできる限り末永く使いたいと思うんですが、その辺もできる限り情報を、5年先になったらもっといいものが、出された、あの表よりもっといいものができてくる可能性もありますし、できる限り市のほうもその辺、藪田課長のほうでよろしく願いたいなと思います。

それと、あとグループAのほうですね、グループAのほうで、これも皆さん興味あるのかなという、まあ想定してちょっと聞きたいんですが、休日（日曜日等）と書いてるんですが、これは、などというのは土曜日のこと。

○市 祝日です。

○利用者の会 祝日ですね、祝日。ほんで日曜日というのは、夜間扱い日の、電力料金から言うたら夜間扱い日になりますね。本来ならこの辺に平日の分もガバッと送って処理して効率よくしたら電気代が下がるやないかということもあると思います。

それと、あと先ほど定時運転なら可能だと言われたと思うんですが、南芦屋浜のほうも定時運転は可能なんですか。芦屋浜と同じような形で定時運転で自動で入れられると。

○市 アドレスを入れれば。

○利用者の会 入れたらいいわけやね、アドレスをね。その辺も入れることができるということですね。

それと、あと貴重品の件なんですが、極端に言うたら、工場なんかやったら夜中も休みの日も操業してますから、何かあったらパッと呼び出し電話がかかって駆けつけて処理するということなんですが。極端に言うたら、貴重品をもし入れてしまったら、その近くに電気の操作盤というか電源ボックスみたいなんがあると思うんですが、その辺のブレーカーを落としてしまうということも可能なんですかね。その辺ね、もし万一物すごく貴重な物を入れられたときに、そしたらそのまま自動で送ってしまったたらもうどうしようもなくなりますので、その辺できるかできないかわからないんですが、ちょっと考えていただきたいなと思います。

それと、あとこのライニングの件ですが、これ今後の費用と、今、新管だとメートル100万円と以前聞いたんですが、このライニングだったら今のとこ20万円ぐらいですか、10万円と20万円。

○市 そうですね。前のやつは調査を含んでおります。

○利用者の会 含んでいるからね。まあ、そんな感じということだね。そこでこのライニングもし万一砕けた場合、これは恐らく今度センターのほうの分離機ですね、ここで排出されるから、まあ通常であれば送風機のほうには行かないと。そのまま焼却されてしまうということになると思うんですが、その辺の関係も、後の管理のほう、よろしくお願ひしたいなと思います。

それと設備の補修改修の件ですが、これスクリュウ型貯留排出機、これは、例えばマ

ンホールをあけて中入ってちょっと運転してるときに軸受けの部分の調心棒というか、そういうので確認したりとか、熱持ってないかとか、その辺はできてるんですかね、それともできてない。恐らく、あれもう古いですからね、10年、20年考えるときに、その辺が必要かなと思います。その辺どうかなという気がするんです。

○市 芦屋市、藪田です。

まず貴重品の件からですが、ブレーカーのスイッチを外に出しておくということですか。

○利用者の会 操作盤をあけて。

○市 操作盤自体が、鍵かかっているんですね。やっぱり誰でも操作できてしまうと事故が起きてしまうので。

○利用者の会 だから呼び出し。極端に言うと藪田課長のところへ呼び出しが入って、それは大変やということで藪田課長が自転車、お酒飲んでたら自転車でちょっと来てもうて鍵持って行って、操作ボックスの中のブレーカーを。

○利用者の会 お酒飲んだら自転車乗ったらあかんのです。

○利用者の会 ああ、そうか。自転車乗ったらあかんのか。来ていただいて。非常に貴重な貴重品の場合ですよ。その人にちょっと来ていただいて、現地の操作ボックスを鍵であけて、とりあえずブレーカー落として、次の月曜日に来たらオペレーターの方が行って処理するみたいな感じをちょっと想定したんですけどね。

○市 いろいろ考えられると思うんですけど、できましたら利用者のほうで十分気をつけていただけたら。たしか年に3回程度は起きていまして、でも非常に少ないと思いますので、十分気をつけていただけたら防げるのかなと思います。できればそちらのほうでお願いしたい。

○利用者の会 それは財布とか鍵ついたやつが入るようなイメージ。

○市 鍵が多かったですかね、やはり。

○利用者の会 ああ、鍵か。

○市 ええ、ありますね。

あとライニングの件ですけども、剥がれた場合とか一応我々も想定はしております。きれいに剥がれて細かく碎けてセンターのほうまで到達しますと、確かに分離機で分けることができ燃やすということなんですけども、大きい形のまま剥がれてしまますとやはり閉塞も考えられるとは思っております。その辺も含めて、今、実験しながらの

経過を見ていってるところになります。当然、リスクも考えながらやっています。

それとスクリーですが、そうですね、日常点検等をやっておりますので、スクリーに関して非常に低速回転ですので、そんな高速回転してるものではないので、ベアリングがあってすごいガラガラ言うてるというものじゃなくて、ゆっくり回ってる中での点検ということは日常的にはしています。

○利用者の会 そしたらマンホールあけて中へ入って点検されてるわけですね、実際に運転するとき。

○市 中ですね、はい。日常的にマンホールの中に入って、その下にありますスクリーとかドラムとか、この辺の点検をするために2人1組で巡回しています。1人で回りますと、マンホールあけたまま作業員が下に入ることになり、以前ちょっとあったのが、付近を通りかかった人がマンホールに足を踏み入れてけがしてしまったというのもありましたので、上に1人、危険回避のために上に1人、警備も含めておるということで2人1組という形を今とらせてもらってます。

以上です。

○利用者の会 ありがとうございます。

それ以外にご質問等ございますか。ないようでしたら、次の議題に参りたいと思います。

議題の3番ですね。芦屋市のごみ・パイプラインに関する基本データその1、資料4を山口委員長のほうからご説明をお願いいたします。

○利用者の会 山口です。

資料4を見ていただけますか。この資料4は私のほうで去年からデータを集めて、いろんな方からいただいたり調べたりしてまとめているものです。実は物すごく量が厚くてもっといろんなことを、データを今、集めているんですけど、その1ということで現状を皆さんと一緒に基本的なベースは一緒の形でしたほうが後々議論がしやすいということも考えてデータをここにつくってみたものを皆さん方に発表したしたもの。その1と書いていますので、今後もっとふえる予定です。いろんな形で。今回は基本データを載せています。

まず最初めくっていただきますと、アステムが最初にコンペとして出されたときの資料です。ここでパイプラインの資料がありまして、パイプラインはどんな計算のもとにつくられたのかということをごここに1つ持ってきました。それによりますと、1987年に、

ここに書いていますような計算のもとに従来方式と新しくパイプラインの真空処理方式で、ここでパイプラインのほうが安くなるという計算のもとにパイプラインは非常にいいと。しかも採算上はそういうことですが、プラス生活環境面での優位性があると。人手に触れず衛生面がすぐれている、環境浄化に役立つ、美観を損なわない、交通面の安全性、ごみ量の変化に対応できるということで、これが採用されたんだなあ。これを見て皆さんいろいろ思われると思うんです。こんないいかげんな数値でよくぞ通ったなという気も私自身はしております。

それで結局、2015年のごみ量と比較すると26%しか使われてないですね。ですから、当時は分別ということも考えてなかったでしょうし、これが最初の計算としては採用されて、1987年ですから10年後には採算が合うよという計算式のもとにつくられたということです。これはこうだったということしかないです。今さらこれをワーワー言っても仕方ありませんので、こういう状況で導入されています。

次のページ、3ページが基本的なデータでどんなのかということで、私のほうでいろんなデータを出して、パイプラインのごみ収集量とか通常のごみ収集、いろんなものをここに持ってきました。これは、まあこういうことでいろんな数字があるんですけども、まあ見ていただければいいかと。

もうちょっと見やすくしたものが次のページにあります。ごみを比較するときには何と比較するのかというのが非常に大切な観点ですね。芦屋市の場合、僕が外から見る意見ですが、どうも比較するときには比較する対象がちょっと弱いんじゃないかなと。もっと客観的に、日本全体がどうなってるのかとか、兵庫県がどうなってるのだとか、過去のデータプラスそういう他の都市との比較も必要じゃないかということで、ごみの総排出量がどうなってるのかを見たものです。軸が2つありまして、全国の軸と当然、芦屋市の軸と左右に分かれています。

これを見ると、確かにごみの量は減ってますよねというのは、よく審議会でも資料としてはいただいているのですが、全国と比べてそのスピードが、全国よりも芦屋市のスピードがのろければ、ごみの量が減ってるとは言えないですね。ですから、全国と比較して芦屋市が順調に減ってるのかというと、どうもそうでもないな。そんなにも悪くもないですけども、いいとも言えない。減ってることは間違いはないけど、減る率を考えるとそんなにいいものではないなと。全国と比較したらそういうふうに見えます。

次のページに1人当たりのごみの排出量ですけども、全国と比較しました。そうする

と、やはり1人当たりのごみ量も減ってるのは減ってるけども、全国の平均よりも高いというのが言えると思います。決していい状態ではない。私自身は、やっぱり最低でも全国平均ぐらいはないといかんのかなあとと思います。

次のページが全体の量でパイプラインがどのくらい占めてるのか、運搬量ですね。2006年をピークに下がる傾向にあります。まあ、このくらい、7.9%ぐらいですね、パイプラインが量としてはありますよということです。これがいいか悪いかはちょっとわかりません。

次のページが、私が一生懸命拾い出して見つけたやつですね。兵庫県が一般廃棄物処理報告書というのを毎年8月に出しております。これを見ると、横に神戸市、西宮市、伊丹市、川西市、尼崎市、宝塚と比較してるんですが、高いんですよ、芦屋市は。悪いところを見つけるのは私の趣味ではないんですけども、1番高いですね。43、兵庫県にはたしか市があったと思うので、その中のどべから2番目です。ですから、ここは1つ大きな問題として、やはり1人当たりのごみ量をどうやって減らすのかということを中心に大きなテーマとして取り組む必要があるかなと思って、これを持ってきました。最低でも全国平均、日本958グラムですかね、それぐらいまでは減らさなきゃいけないと思います。

次のページは収集の運搬手段別ですね。どんな手段でごみを運んでるのか。パイプラインとかパッカー車、委託収集、直営と委託とありますので、パッカー車。それから許可業者持ち込み、それから自己運搬、これは私たちの車でここに来てますね、それから集団回収という形になっています。1つ思ったのは、半分以上が収集のためのお金だということです。こんなにもやっぱりかかっているかなと初めて気がついたんですね。収集ってそんなにかかって、燃やすほうが高いかなあって、実は運搬するための費用というのはこんなにかかっていますよということです。集団回収は報奨金の金額をここに持ってきています。

次に、ごみ処理費用を見てるんですが、パイプラインの費用は大体十二、三%でいって、2013年が中央制御の大きな設備投資されて、交換されたものがありますので、ぼんと16年に上がってますが、まあ、このくらいの十二、三%、四%ぐらいでパイプラインの費用がなっていると。何か急激にとか年々上がっているという状況ではないなと思います。約2億円でその辺で推移してる。

次が大変だったんですけども、じゃあ、ほかの市と比べてどうだったのかということ

を拾いました。これは大変で、各市の年度ごとの決算カードとか何かありまして、それを全部拾いまして、それとごみ費用は、これは兵庫県のデータから拾って比較したものです。芦屋市のここに支出額とありますけど、そういうのと、あとはそれがその支出額に対してどんだけのごみ処理費用がかかっているのかということで芦屋市の場合は三%、ちょっとですね、平均三%ちょっとだと思いうんですけど、三、四%で動いてて、兵庫県の平均よりもちょっと下ぐらい。ですから、これは本当に効率的にされてるかなど。伊丹市がどういうわけか非常に低いと、うまいやり方をされてるかもしれませんが、低くて。今、豊中と一緒にごみ処理されますので、もっと低くなるかもしれません。西宮市が何かされたんでしょね、何か建てられたというのでちょっと高い状況で、今はそれが終わったので低くなっていると。まあ大体、私たちは三%から四%を全体の予算からごみの処理費用として使っているというのがこれでわかると思います。だから決して僕は芦屋市だけが低いということではない。パイプラインがあるとか、そういうふうに考えました。

あとパイプライン設備関係のデータをここにまとめてます。主な、これはセンターですね、そこにある機械、どんな機械があるのかということ、これがセンターと。あとローカルと言われるものがありまして、地図が2ページありますけども、ここに芦屋市のローカル、それぞれの地域の場所とどんな投入口が何カ所あって何メートルそれが1番遠いところが何ぼあるというのを絵の上に入れて、どういうふうにパイプラインが配置されてるのかがわかるようになってます。これが芦屋浜と南芦屋浜と両方入れて、こういうふうになってるんだなというのが大まかにわかるようなデータとしてできてます。

次に、これは個人的に興味があって、私コンピューターが好きなので入力と処理とアウトプットというのを絶えず考えてます。入力というのは、ごみがどのような形で芦屋市が処理されてるのかというのがパイプライン、車両、委託車両、持ち込み、いろんなものがあって、こういうふうに持ち込まれてますよと。トータルのごみ処理量が3万1千トン。それが燃やすごみ。紙、ペットボトル、そういうリサイクルに使う。それから燃やさないごみというのも分かれて。あと集団回収のものをトータルして3万5千トンのものを芦屋市として処理をしてみると。その処理したアウトプットがどうなっているかというと、燃やしたり何だりして、それが減量化されたのが68%、埋め立ててるのが15%、そしてリサイクルが17%と、こういう形でアウトプットがされてるということです。

ただ、これは評価する場合に何の視点を持って評価するのかということで考えたんで

すけど、そしたら全国はどうなってるのかということで環境白書を見ました。環境白書を見ると、日本はどうなってるかというと、ここに描いてある絵ですね。最終処分が16%で、循環利用が260、ちょっと済みません。まあ、日本、この資料を信じると、施肥というのがあるんですね、自然還元ですか。こういう形で全体的には処理されて、循環利用量というのがあるのかなと、初めて私も知ったんですが、結構リサイクルがどんどんされてるなあというのがこれによって全体像がわかって。

次に、じゃあ芦屋市としてリサイクルがどうなってるのかを見ました。やはり日本のリサイクル率よりも芦屋市のリサイクル率は低いです。全国は約20%、ごみの20%はリサイクル率であるんですが、芦屋市は、多少は上がってるんですけども、近年で17%、3%ほどギャップがあるので、これも1つ今後の課題として芦屋市は考えなきゃいけないのかなと、こういうデータをつくって頭の中に芦屋市のごみというのがどういうふうになってるのかというのを整理した資料です。

これはその1だけなので、これから具体的な費用はどうなってるかとか、細かい話がいっぱいこれからまたこの中に附属されて、その2をやりたいと思います。もし、皆さん方で御質問なり、こんな資料何かあったほうがいいなというのがあったら検討します。

○利用者の会 ありがとうございます。素晴らしいデータだと思います。こういうデータを山口さんなしではつukれないということですが、今日いただきましたデータはホームページにも掲載されておりますし、ぜひこれから芦屋市に、南ですか、シーサイド、パイプラインある地域じゃなくて、今ごみの審議会等もございます。芦屋市さんがまとめられたデータより非常に、庶民レベルに立つと非常にわかりやすいデータだと思いますので、ぜひこういうデータもごみの方針を決定される審議会のほう、メンバーさん15名の方にもぜひ配付を芦屋市として、していただければありがたいと思います。

以上、そういうことで何かご質問等あれば皆様どうぞお願いします。春木さん、どうぞ。

○利用者の会 春木です。

本当にご苦労さまです。これだけのことをやろうとしたら、まだまだこれ以外にもつくられてるということですので、本当に仕事としてやるぐらいの量で、本当に関心する次第です。

リサイクル率も課題という話も出ましたが、私たちパイプライン利用者の会も新聞とか紙資源を入れないように、できる限りリサイクル率を上げる努力をせないかなと

ということだと思っております。

それとちょっと外れるんですが、今12、13ページで芦屋浜の地域のパイプライン図とローカル設備ということで、詳細なこれ書いていただいているんですが、現在、芦屋浜は昭和54年ですか、南芦屋、平成10年から扱ってきて。この投入口で今使っていないというのが、これまでの図で何か所かあるんですかね。例えば前、下水処理場か、南芦屋浜の下水処理場のほうは使ってなくて、ちょっと取りかえか修理に活用したみたいなことも聞いてたんですが、それ以外に使っていない投入口、まあ投入口というのは排出機だとかいろんな機器が残ってるんだと思う。それはいいんですかね、もう。下水処理場以外はないんですか。

○市 芦屋市の林と申します。

下水処理場の投入口に関しましては、部品を取り寄せて、今、通常に運転をしております。使えない投入口は現在ございません。

以上です。

○利用者の会 ご質問はその他ございませんか。

皆さんないようでしたら、このデータも。ございますか。

○利用者の会 もうこれで終わりですか。

○利用者の会 議題はこれで終わりですけど。

○利用者の会 その他でもいいですか。

○利用者の会 はい。

○利用者の会 その他ですけど、時間がちょっとあれやけど。

○利用者の会 そうしますと、ご質問がないようでしたらこの議題の3番は終了させていただきたいと思います。

続きまして、その他ということでご質問等、春木様どうぞ。

○利用者の会 何度も済みません、春木です。

今年度のこの維持費の予算が1億9千万円ほど挙げられてるということで。一方、電気代の件もありますし、それからしたら今年度予算も十分活用してやっていただきたいなと思いますので、よろしくをお願いします。

それと集会所トークの資料で、このパイプラインについては利用者との協議を行い審議会に諮問しますと。集会所トークの資料で、それ1行だけ載ってたんですが、この辺のようなことを言われるか想定されることあったらちょっとお願いしたいなと思いま

す。

○市 芦屋市の藪田です。

集会所トークで想定されるというのは、市長が何かをおっしゃるということですかね。

○利用者の会 1行しか、簡単にしか載ってなかったんですけど。

○市 その範囲だと思っております。

○利用者の会 その1行で。まあ、わかりました。

○利用者の会 質問があって答えるは市長さんやから、わからへんわね。

○市 その範囲で説明されると思います。その中で質問があった場合は、今、長谷委員おっしゃいましたけど、その質問に対してお答えになるのかなど。それが集会所トークなのかなと思っております。

○利用者の会 何も聞かれてないんですね。聞かれてても、まあね、わかりました。

○利用者の会 ありがとうございます。それ以外に、はい、三宅さんどうぞ。

○利用者の会 三宅です。

今の集会所トークに関係しますけど、以前、何とかいうのありましたね。あれでごみ収集の関係のいろんな意見が出てましたけど、多くはこの利用者の会や何かを通じて反映されてるものだと理解してます。ただ、その辺のところでも市長トークの中で質問が出るかと思えますけど、その辺とかそちらのほうで御用意いただくんですかね。

○利用者の会 集会所トークは藪田さんたちは出てませんよね。

○利用者の会 そうですか。部長さんは出ないですね。

○市 集会所トークはこのパイプラインだけにかかわらず、日ごろの市の行政に関して地域の住民の方と市長が、市長の言葉で説明するという眼目になってますので、その範囲で市長がどういった言葉で説明されるかだと思いますので、そこはいろんな、当日お話を聞いて市長の言葉をどういうふうに考えるかということだと思います。

○利用者の会 ありがとうございます。

それ以外にございますか。山口さん、どうぞ。

○利用者の会 集会所トークの基本的な質問なんですけども、何を言ったらいいのかというろいろ考えてるんですけども、市長がそこでおっしゃってる責任といいますかね、有効性といいますかね、当たりさわりのないように話されるかもしれませんけども、一定意味はあるんだろうかと基本的に思うんですよ。一生懸命考えてワーって言いますよね。それはこの間のパブリックコメントもそうなんですけど、一生懸命考えて出しても、答え

見たら、ええって。そういうことをどのように捉えたらいいかなって。市長が頭の中でどう考えてるかということをしやべられて、市長ってこんなことを考えておられるんなぐらいなんですか。それとも、言ったことは絶対実行すると、そこまで話を詰めるのか、ちょっとその辺の度合いがもう一つぴんとこないんですけど。もし、どなたか御存じでしたら教えてください。

○市 北川です。

先ほども申し上げましたように、地元の方の生の声をお聞きして、その場で市長がどう考えるかということだと思いますが、個々の細かいところを市長が1から10まで承知はしていませんので、1つの方向性として市長が考えたこと、感じたこととお答えするということだと思いますので。住民の方はいろんな細かいことをよく御存じですので、そういうお気持ちでお話しなさなると思います。市長のほうは、そういったお気持ちも酌み取りながら、大きな話でお答えするのが一般的だと思います。

○市 芦屋市の森田です。

ちょっと今のに補足させていただきます。これは、質問原稿を事前にいただくわけでもありませんので、集会所トークは何を、どういうご要望が出てくるかもわかりませんし。市長も、もちろんできもしないことを、言質とられるようなことは言わないと思います。ただ、その場でいただいたご質問というのはその場でなくなるわけではなくて、市長が一定当たりさわりのない発言をするかもしれませんけれども、そこで出されたご意見というのは事務的には進行管理をしております。どこそこの集会所で出たこういうご要望に対して、その後どういう対応をとったのか、できるのかできないのか、できないのならその理由は何か。そういうことは、その場で市長の口からお答えできなくても、適切な進行管理をして、それなりのお答えを、その時間と場所はそれぞれどうなるかわかりませんが、その後もきっちりフォローしていると、そういうことですので、その点は御安心いただければと思います。ご要望に添えるかどうかということは別ですが、きっちり対応はいたしてまいりますので、その場限りでなくなってしまうということではないです。

○利用者の会 それはホームページか何かで。

○利用者の会 広報。両方が出る。

○市 ホームページは多分大きな概要でご報告させようと思います。事務方のほうは、森田が申しましたように細かい進行管理をしていって現場現場で対応していくというこ

とです。

○利用者の会 ありがとうございます。

今のお答え、毎年やっていたら市長トークですかね、非常にありがたいと思います。昨年度も行われたと思うんですけども、その結果はホームページに載せられたのかどうか私は記憶にないんですが、去年はやめまして、要望なんですけれども、こういう非常にやはり、他市がどうされてるかわかりませんが、住民の方と市のトップの方と話ができる、これはすばらしいことと思います。

ですから、ぜひそういう形でホームページをつくっていただいて、市長トークというのは南もあるし、芦屋全地区でやられると思いますので、例えば私どもは芦屋市民、例えば北のほうの方ですか、どういう問題があるんだとか、そういうのもぜひ本音が出てくると思いますね。ですから、そういうのを全部ホームページに載せていただいて回答は検討中でも結構だと思うんですが、他地区はどういう、住民としてのご要望があるのか、これはやはり市民が1つになる同じ悩みを共有できる問題かと思っておりますので、ぜひそういうのは検討していただきたいなと思っております。

済みません。

○市 集会所トークは我々の所管ではございませんので、きょうこういったご要望があったということは担当のほうにはお伝えしておきます。

○利用者の会 ありがとうございます。

それ以外にございませんか。

○利用者の会 集会所トークのことですが、非常に対立した問題については期待できません。どう言ったらいいやろうな。一応、集会所トークそのものの概要についてはホームページに載ってますので、去年やったのも載ってます。だから、ちょっと調べていただいてどの地区でどんなものが出てくるかというのは多分わかるかと思っております。

雰囲気は、その集会所に出てないとなかなか読み取れないので、内容について回答が誠実なのかどうなのかというのは出た人の感想次第です。これは長年出てるので、市民レベルで見るとこんなものかと思う部分もありますし、細かいところのちょっとした部署が動けば直る問題については的確に処理はされてることが多いです。

大きな問題は、やっぱり市としてもいろいろ考えて、市民レベルでのこういう意見が出た場合に、そのアイデアがうまく生かされるかどうかについては若干違和感が残ったとか、残念感が残ったというのはありますので、それは余り期待しないほうがいい

かと思えます。

ただ、出ることと、その雰囲気を感じて帰るということについては皆さん出ていただいて、市長さんなり関連する部長さんたちがお答えになることについてよく聞いていただいたほうがいいかなど。やっぱり寂しい集会所トークというのはよくないなと思ってますので、ぜひ、この地区でも3回やりますから出ていただきたいなと思っております。ちょっとした感想プラスです。

○利用者の会 ありがとうございます。

ほかにございませんか。大田さん、どうぞ。

○傍聴者 潮見町の大田です。

先ほど松木議員のほうから協議会、発言されましたけども、最初、傍聴人は発言できないという形で我々聞いてたんですけども、できたら今後、協議会に関しては、出席してるメンバーというのは非常にパイプラインに関する関心を持っている人間が多々いると思うんですよ。多いと思う、ほとんどだと思う。ということなので、できましたら我々も傍聴人の立場で発言できるようにしていただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

○利用者の会 ありがとうございます。

今のご意見でいかがでしょうか。

○利用者の会 私の考えでは、基本的にはここにいる委員で話す。なぜならば、切りがなくなります。限られた時間の中でやっていますので、お話ししたいことはあるかと思えます。ただし、全くゼロというのも問題があると思えますので、その場の中で手を挙げていただいて議長なり司会の方が、これは絶対に必要があると判断されたときには話ができる。ただ無制限に話ができるとなると、ちょっとやっぱりそれはなかなか議事進行上、大変だなと思えますので、私はそのように考えてます。ほかの委員の人はどうでしょうか。

○利用者の会 奈良さん、どうぞ。

○傍聴者 私、浜風1街区の奈良で、実は去年まで委員をやってまして、今度はちょっとかわるんですが、一言、最後にお問い合わせがあります。それは、市長さんとのトークのやり方、これがどうも、私、前に出席してわかったことですが、市長さんが司会をやって答弁をやって全部自分がやるわけです。トークというんだからそれでいいんじゃないかというかもしれませんけども、そうではなくて、ちゃんと司会がいて、この人に話をする

よ、この人に次はというふうに満遍なくやれるようにしてもらわないと、何か1人の人に全部集中して、市長が都合のいいような、答弁がしやすいような話のことばかりに集中されていること、この前、経験してるんです。というような問題があるので、やはり司会をちゃんと入れること、そしてその人が公平に一人一人、この人が、次は次ですよ、その人ばかりに話をさせるということをさせないような方法を市の中で考えていただけたらありがたい。これが私のお願いです。

以上です。

○利用者の会 ありがとうございます。

北川部長、ぜひ。

○市 担当部署には、そういったご意見があったということは伝えます。

○利用者の会 春木さんどうぞ。

○利用者の会 話、もとに戻しますけど、春木です。

この協議会の傍聴に来ていただいている方々は、やっぱり非常に熱い思いを持ってわざわざ足を運んでこられて参加しておられるんだと思います。また一方、限られた時間の中で芦屋市の部課長さんたちも出ていただいていますので、余り決められた時間以上に、先ほど委員長も言われましたが、超過するわけにもいかんと思います。しかし、一方、技術的な、いろいろこれまで社会で経験積まれた方もいっぱいおられると思います。また一方、それらに関しては非常にいい案をお持ちの方もいろいろそれぞれのところにおられると思いますので、その時々ちょっと意見を聞いていただくというのがいいのかなと私は思っています。余り時間をとる議題がいっぱいの中でいろんな傍聴される方々の意見を聞くというのは非常にこんがらがるといような気がしますけど、その辺は判断いただいた中で、ちょっと手を挙げられたら聞いていただくのもいいのかなという気はします。また利用者の会もありますし、いろいろ会があるので、その中で十分反映していただくということがまず、それはまず1番だと思いますけど。その辺、判断していただけたらなと思います。

○利用者の会 ありがとうございます。

藪田さんのほうから。

○市 芦屋市、藪田です。

そうですね、この協議会の中での傍聴者の方の御意見ですが、私はやはりこの会議の時間とか進行管理もありますので、余り傍聴者の方が手を挙げて意見を述べられる、こ

れがちょっと増えてきますと進行に支障を来すこともあるかと思しますので、基本はやはりこの協議会の委員の中での話し合いなのかなと思っております。傍聴者の方ですね、申しわけないんですけど、できましたらこの会議が終わった後、ちょっと聞いてもらえますかとか、利用者の会の、我々のこの協議会よりも倍以上の回数をやっているように聞いておりますので、その中で話し合ってください、この辺を基本にしてください。ただ、どうしても本当にこれはちょっとというようなものについては手を挙げて、今までもありましたけど、ご意見を述べてもらうという形にしていただけたら助かるなと思しますので、この辺、ご協力のほうよろしくお願ひしたいと思います。

○利用者の会 基本はそれですね、基本。

○利用者の会 それでないと、議事録にも載ってるわけやから。済みません、長谷です。議事録にも載ってるわけやから、既に何人か質問されてるわけですから、それを拒否するというのはもとの前提条件を崩してしまうので、ご意見としていただくというのはやってもらったらいんじゃないかなと思います。ただ、良識的な判断をしていただいて、簡明にということを条件にするぐらいをやっていったらどうかなと私は思います。するなという形であれば、もう既に認めてるわけですから、それもできないと思いますよ。

以上です。

○利用者の会 ありがとうございます。

そうしますと、この件に関しましては市側も利用者の会も共通のコンセンサス、原則は我々のみと、ただし特例があるということで、今後は傍聴者の方もご発言の機会があると進めさせていただきたいと思ひます。

以上でございます、最後の議題の次回のスケジュールでございますが、来月、5月27日の土曜日はいかがでしょうか。部長様、森田課長様、皆様、ご都合いいですか。そうしますと、次回は5月27日土曜日、時間は10時から、場所はこちらのほうでということで開催させていただきたいと思ひます。

本日はちょっと時間が余りましたけれども、これにて第8回ごみパイプライン協議会を終了させていただきたいと思ひます。

皆さん、どうもありがとうございました。